

令和元年度 上河内中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・学び鍛える生徒
- ・自他を尊ぶ生徒
- ・気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・愛と情熱にあふれる教師
- ・研きあう教師
- ・実践する教師

☆ めざす学校像

- ・楽しく学びあえる学校
- ・協に伸びる学校
- ・信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （1） 個に応じた教育を進めながら，生徒が生涯にわたって社会の変化に対応し，成長し続けることができるように，その基盤となる「知」・「徳」・「体」のバランスのとれた力の育成に努める。
- （2） 全教職員が使命感と意欲をもって学校経営に参画し，教育課程の具現化に取り組むことで生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え，地域とともにある学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）「確かな学力」向上をめざして
 - ・学力調査を活用した現状分析と改善策の検討・実践
 - ・学業指導の充実
 - ・家庭学習の充実
 - ・基礎・基本の確実な習得
- （2）豊かな心の育成をめざして
 - ・道徳科（道徳の時間）を核とした心の教育の充実
 - ・体験活動や読書活動を通しての豊かな感性の育成
 - ・自己有用感や相互尊重精神の育成（いじめ・不登校への積極的な取組）
- （3）健康と体力の増進をめざして
 - ・自己の健康管理に努め，進んで運動に取り組む生徒の育成
 - ・食育や保健指導の推進・充実
- （4）未来を生き抜く力の育成をめざして
 - ・社会の動きへの興味・関心の喚起・高揚
 - ・地域の教育力活用と生徒の地域行事への積極的参加の推進
- （5）教職員の資質・能力及び意欲の向上をめざして
 - ・OJT並びに現職教育や授業公開等の研修を通しての授業力と同僚性の向上
 - ・業務の適正化（効率化・簡略化による負担軽減）
- （6）小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - ・小学校と連携した上河内地域学校園としての活動の推進
 - ・実効性のあるものとするための組織・活動内容・課題や改善案等の検討

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく，たくましいゆずっ子の育成

～ 基本を身に付け，人とのつながり，夢に向かって生きる子どもを育てよう ～

4 教育課程編成の方針

教育課程の目標は，教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領に示すところに従い，すべての教育活動を通して，生徒の人間として調和のとれた育成を目指すところにある。従って教育課程の編成は，学校教育目標の達成を図る上から各教科・特別の教科，道徳・総合的な学習の時間・特別活動等が相互に調和と統一のとれた編成とする。さらに地域や学校の実態，生徒の心身の発達段階や特性等を十分考慮した編成とする。

また，編成にあたっては，生徒の興味・関心や期待，保護者や地域の人々の意向を十分に把握し，地域に根ざした特色ある学校づくりを目指していくものとする。

以上のことをもとに学校教育目標の具現化を目指し，教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	・生徒一人一人を大切に、個に応じた教育の推進 ・学業指導の充実による、「学ぶ場」としての学校づくり ・教職員の資質や能力の向上をめざした取り組みの実施と働き方の検討・改善
【学 習 指 導】	・確かな学力を身に付け、主体的に考え表現できる生徒の育成 ・学びに向かう集団づくりと学習意欲の向上を意識した指導 ・家庭学習を充実させるための課題の出し方の工夫 ○・地域学校園としての学習ルール作成 「ゆずっ子学びの5つの約束」「学力向上アクション6プラン」
【児 童 生 徒 指 導】	○・基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成 ・生徒指導部会や教育相談・特別支援教育部会を中心とした組織的な対応 ・体験活動を踏まえた道徳教育の推進
【健康（体力・保健・食・安全）】	○・地域の特色を生かした食育の推進 ○・生活習慣病予防指導の充実 ・運動生活の習慣化

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習にとりくんでいる」⇒生徒の肯定的回答 80 %以上	① 本時のめあてをしっかりと具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開するとともに、めあてに対する振り返りをさせる。 ② 必要に応じて、授業の中で話し合い活動を取り入れるなど、主体的で対話的な学習が進められるような学習形態を工夫する。 ③ 図書委員会と協力して家庭学習ノートの提出を徹底し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.1%で目標を 8.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒に分かりやすい具体的めあてを提示し、主体的に学習に取り組めるようにさせる。 ・話し合い活動など、生徒が主体的に学んでいると実感できるような授業形態を工夫する。 ・家庭学習の充実を図るため、家庭学習ノートの提出と内容の振り返りをさせる。
	A 2 A11 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒生徒の肯定的回答 80 %以上	① 思いやりの基本となる、相手の話を目・耳・心で聞くよう、話の聞き方について指導する。 ② 生徒会と協力し、学期に1度“思いやりのある人”について表彰することで、生徒の思いやりに対する意識を高める。 ③ 運動会への高齢者の招待、福祉委員会による祥豊苑訪問や 1 日早い年賀状作成などの活動を通して、高齢者に対する理解を深め、いたわりの気持ちを育む。 ④ 教育活動全体を通して、愛情を注いでくれる自分の祖父母や、ボランティアで地域のために活動する高齢者に対して、感謝の心や、共に生きていこうとする気持ちを培う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.9%で目標を 6.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・授業や集会等で相手に対する話し方や聞き方を指導する。 ・生徒会と協力して、思いやりに対する意識を高める。 ・さまざまな教育活動を通して、家族や地域の方に対する感謝の心を育ませる。

目 指 す 生 徒 の 姿	A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」 ⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 学校行事や委員会活動、部活動を通して生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進し、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ② 体育館移動時に無言で移動したり、1F廊下の移動の仕方を徹底させたりする。 ③ チャイム2分前着席や指名・指示されたときの返事を徹底する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.3%（昨年度よりも 4.7 ポイント↓）で目標を 5.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・さまざまな教育活動を通して、生徒にきまりやマナーの大切さを指導・助言する。 ・時と場に応じた言動を考えさせる。
	A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体のアンケートの「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒会や教職員・PTA によるあいさつ運動を活発に行うとともに、部活動であいさつ指導の充実を図る。 ② 教職員が率先してあいさつをすることで学校全体が、あいさつをする雰囲気を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.3%（昨年度よりも 0.7 ポイント↓）で目標を 5.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会や教職員・PTA に加え、部活動によるあいさつ運動を行い、あいさつの習慣化を図る。 ・自ら率先してあいさつをす意識を高め、実践させる。
	A5 A7 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体のアンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 各学級で、1 年間の自分の目標（マダラート）を作成させ、定期的に見直しをさせることにより、目標に向かって取り組むことを意識させ、また達成感を味わわせる。 ② 定期テストにおいて、テスト計画表を作成させ、自分の目標に向かって計画的に取り組ませる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 81.7%で目標を 1.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・1 年間という長いスパンだけではなく、短期目標も設定し、その都度振り返りをさせて、達成感を味わわせる。 ・抽象的な目標の設定の仕方ではなく、数値目標など、より具体的な目標の立て方を指導し、計画的に取り組ませる。
	A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体のアンケートの「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 保健だよりや健康委員会による「姿勢の日」の活動を通して、健康な生活について啓発をする。特に肥満、歯科保健については、地域学校園と連携して指導する。 ② 新体力テストの結果を基に、<u>自己の体力や日常生活を振り返らせ、より望ましい運動習慣の取組を促す。</u> ③ 自転車通学の生徒が多いので、登校指導、自転車点検、交通安全教室などの活動を通して、自転車の正しい乗り方、交通安全の意識を高める指導を徹底する。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答 90・6%で達成している。 【次年度の方針】 ・保健だよりや健康委員会による「姿勢の日」の活動を通して、健康な生活について啓発をする。特に地域学校園健康課題であるう歯の受診率の向上に努める。 ・<u>新体力テストの結果をもとに、不足している基礎体力作りに取り組む。体育の授業では計画的に補強運動を取り入れ運動量を増やす。</u> ・自転車通学の生徒が多いので、登校指導、自転車点検、交通安全教室などの活動を通して、自転車の正しい乗り方、交通安全の意識を高める指導を徹底する。
	A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体のアンケートの「生徒は、英語の授業やALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 英語による授業を行う。また、教師（ALT を含む）との対話活動や、生徒がペアになって自分の考えや気持ちを英語で伝え合ったりする活動など、生徒が発話する場面を多く設ける。 ② ティームティーチングの授業で、T1 と T2 が英語でのやりとりのモデルを多く見せることで、生徒に自然とやりとりの仕方を身に付けさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.0%で目標を 6.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教師（ALT を含む）や生徒同士での対話活動を多く取り入れる。 ・自己関連性・必要性を感じさせ、伝えがいのある活動にして、生徒が英語を話したいという意欲を高める。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体のアンケートの「私は、宇都宮の良さをしている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 地域の良さをを知るために、地域の人と一緒にって行事に参加することにより「郷土愛」を育ませる。 ② 地域の行事には、積極的に参加するよう生徒に促すとともに、地域のボランティア活動に参加しやすいよう配慮する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 83%であり、目標を 0.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒は、地域内行事やボランティア活動等に積極的に参加している。今後は宇都宮全域としてとらえさせ、学級活動などで宇都宮市の歴史や文化について伝えていく必要性がある。
	A10A25 生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体のアンケートの「生徒は、P C や図書等を学習に活用している」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 国語科のことばの学習において、積極的に図書室を利用する。また、美術科においても、美術関連の図書を授業で活用する。 ② 総合的な学習の時間において、パソコンや実物投影機を利用して、調べ学習や発表に取り組ませる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 64.7%で目標を 12.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・国語科や美術科だけでなく、積極的に図書室を利用し、授業で図書の活用を進める。 ・総合的な学習の時間を使い、生徒に I C T 機器を使う機会を多く設ける。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体のアンケートの「生徒は、環境問題や防災等の持続可能な社会について、関心をもっている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒会と連携し、節電やリサイクルによる再利用について呼びかけ、回収活動を実施することで、生徒の関心を高める。 ② 避難訓練等を通して、火災や自然災害の対策を身に付けさせ、自ら考え行動する生きる力の育成を図る。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 68.2%で目標を 11.8 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・授業を通して、「持続可能な社会」についての理解を深めさせる。 ・授業で学んだことをもとにリサイクルなどの活動を行うことで、関心を持たせるようにする。
	B 1 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体のアンケートの「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」⇒生徒の肯定的回答 80%以上	① <u>地域学校園協議会で課題として取り上げ、小中合同で場に応じた適切な言葉づかいの継続指導を協力して行い、成果を見極める。</u> ② <u>地域学校園協議会において、丁寧な言葉づかい運動を推進し、標語等を募集し成果があったかどうか検証する。</u> ③ 教職員が手本となるような言葉づかいをするよう心掛ける。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.2%で目標数値を 7.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・言葉遣いにおいては保護者の肯定的回答が低く、生徒とのギャップがあるため、<u>継続して丁寧な言葉づかい運動を推進し、標語等も地域に広めていきたい。</u> ・学校教育活動の中でも、生徒が意識して今年度以上に丁寧な言葉づかいができるようにしていきたい。
	A13A16 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体のアンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 80%	① 生徒の様子を把握し、常に適切な対応ができるようにする。また、S C や M S 等と連携を図り、個に応じた対応に心掛ける。 ② 生徒指導部会や教育相談部会等を定期的に行い、生徒に対する支援の共通理解を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であった。 【次年度の方針】 ・次年度も生徒の様子を把握し、常に適切な対応ができるようにする。また、S C や M S 等と連携を図り、個に応じた対応に心掛ける。 ・今年度同様生徒指導部会や教育相談部会等を定期的開催し、生徒に対して適切な支援ができるよう共通理解を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体のアンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒生徒の肯定的回答 80%	① 休み時間の巡回指導や教育相談、嫌な思いアンケートを利用して、いじめを早期に発見する努力を行う。また、生徒の不適切な言動に対して細かな声掛けを行う。 ② いじめに対しては、いじめ対策委員会で組織的かつ迅速に対応する。 ③ 保護者会、HP、学級だより等で取組を周知する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.9%（昨年度よりも 0.7ポイント↓）で目標を 14.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・巡回指導や教育相談、アンケートなどを利用し、早期発見に努める。 ・いじめに対しては、いじめ対策委員会で組織的かつ迅速に対応する。 ・保護者会、HP、各種だより等で取組を周知する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体のアンケートの「先生方は、一人一人を大切に、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」⇒生徒の肯定的回答 80%	① 教育相談部会において、不登校傾向の生徒について、SC、MSと連携した対応を検討し、全職員共通理解のもと支援に当たる。 ② Q-Uの結果や日記指導（スタンダードダイアリー）を利用し、学級集団としての状態や、生徒一人一人の意欲や満足感を把握し、学級経営に生かす。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答 91.0%で達成している。 【次年度の方針】 ・教育相談部会において、不登校傾向の生徒について、SC、MSと連携した対応を検討し、全職員共通理解のもと支援に当たる。 ・Q-Uの結果や日記指導（スタンダードダイアリー）を利用し、学級集団としての状態や、生徒一人一人の意欲や満足感を把握し、学級経営に生かす。 ・自尊感情を高めるような声掛けを全職員で実施する。
	B2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体のアンケートの「教職員は、よいところは認め指導すべきところはしっかりと指導している」⇒教職員の肯定的回答 80%	① 校内公開授業（一人一授業）や各種研修会で学んだことを組織で共通理解し、さらに生徒が興味・関心をもって取り組む授業を工夫・改善する。 ② 生徒に関する情報交換を密にし、協力体制の中で、より個に応じた支援を行う。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.3%で目標を 12.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・道徳の授業を通して、自分の意見や他者の意見をもとに、考えを深めさせる。 ・今年度同様生徒に関する情報交換を密にし、協力体制の中で、より個に応じた支援ができるようにする。
	A16 教職員は、外国人生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体のアンケートの「外国人生徒に対しての支援ができています」⇒教職員の肯定的回答 90%	① 英語科・ALTを中心とした研修会を実践し、外国語の苦手意識を軽減させる努力に務める。 ② グローバル社会を意識し、帰国子女・外国人生徒への適切な支援に心掛ける。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で目標を 10ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も 100%の肯定的回答が得られるように、英語科・ALTを中心とした研修会を実践し、外国語の苦手意識を軽減させる努力に務める。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体のアンケートの「私は、今の学校が好きです」⇒生徒の肯定的回答 90%	① 学年・学校行事をととして、生徒が主体的に企画・運営を行い、感動ある行事につなげられるようにする。 ② 生徒の自主的活動を充実させられるよう生徒に考えさせる機会を数多く作り、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりを推進する。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答は 88.5%で目標を 1.5ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・学年・学校行事をととして、生徒が主体的に企画・運営を行い、感動ある行事につなげられるよう努力する。 ・生徒の自主的活動を充実させられるよう生徒に考えさせる機会を数多く作り、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られる集団づくりを推進する。

目 指 す 生 徒 の 姿	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体のアンケートの「先生方の授業は分りやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒生徒の肯定的回答 80%	① T T やかがやきルームの利用など少人数指導の工夫により基礎基本の定着を図り、本時のめあてを明示し振り返りを記入させることにより、「分かる授業・できる授業」を目指し、指導法の改善に努める。 ② 「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.5%で目標を 11.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒に、分かりやすい具体目標を提示するとともに、生徒に分かった・できたという実感を持たせるような課題を工夫する。 ・「表現力を高め、自分の考えを伝え合う」授業をテーマとした「一人一授業」を実践し、「分かる授業・できる授業」を目指し、指導法の改善に努める。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体のアンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%	① 新学習指導要領完全実施に向け、教職員が一丸となって、生徒達のために共通理解を図り計画的に教育活動を実践する。 ① 各種委員会を定期的に開催し、リーダーを中心にそれぞれの教育活動推進と次年度に向けた検証を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で目標達成。 【次年度の方針】 ・今年度のように教職員が一つになり、それぞれの立場を理解しながら、生徒のために共通理解を図り、計画的に教育活動を実践する。 ・教職員の校内研修の充実を図る。(各種委員会を定期的に実施する。)
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体のアンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%	① 学校経営方針に基づき教育活動を実践するとともに、教職員が担う業務の明確化・適正化を検証する。 ② 職員会議や各種委員会の見直しを基に、会議等の効率化・適正化を図り、教職員のゆとりの時間確保に努める。 ③ 宇都宮市部活動の指針に基づき、各部活の適正な計画立案に従い望ましい部活動の在り方を実践する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 81.5%で目標を 1.5 ポイント、さらに昨年度と比較して 33.4 ポイントを上回った。 【次年度の方針】 ・職員会議や各種委員会の見直しを基に、会議等の効率化・適正化を図り、教職員のゆとりの時間確保に努める。 ・宇都宮市部活動の指針に基づき、各部活の適正な計画立案に従い望ましい部活動の在り方を実践する。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体のアンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒生徒の肯定的回答 80%	① 地域学校園内小中学校間の連絡・調整等を密に行い、小中合同あいさつ運動や冒険活動教室、進学先中学校訪問等における活動の充実を図る。 ② 図書室の図書紹介ポップでの小中交流を生徒に広く周知する。 ③ 小中一貫教育における『ゆずっ子』の学びの 5 つの約束を意識させて学習に取り組ませる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.3%で目標を 4.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・小中合同あいさつ運動や冒険活動教室、進学先中学校訪問等における活動の充実を図る。 ・図書室の図書紹介ポップでの小中交流を生徒に広く周知する。 ・小中一貫教育における『ゆずっ子』の学びの 5 つの約束を意識させて学習に取り組ませる。

本校の特色・課題等	A22 A23 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体のアンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」⇒生徒の肯定的回答 80%	① 家庭や上河内中学校地域協議会などと連携し、地域学校園の諸活動と関連させながら、地域人材を活用した諸活動を推進する。 ② 情報モラル教室や交通安全教室において企業と連携・協力し、よりよい教育活動の充実を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.3%で目標を 4.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も地域人材を活用した農業体験学習・関白神獅子舞や宮っ子チャレンジ（職場体験学習）の充実を図る。 ・情報モラル教室や交通安全教室において企業と連携・協力し、よりよい教育活動の充実を図る。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体のアンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」⇒保護者の肯定的回答 80%	① 安全指導係を中心に全教職員で、校内安全点検を定期的実施し、校内の安全確保に努める。 ② 管理職、事務長、学校業務委託員と連携を図り、校内の小破修繕に努める。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.1%で目標を 9.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も安全指導係を中心に全教職員で、校内安全点検を定期的実施し、校内の安全確保に努める。 ・管理職、事務長、学校業務委託員と連携を図り、校内の小破修繕に努める。
	B3 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している 【数値指標】全体のアンケートの「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」⇒生徒の肯定的回答 80%	① 梵天祭、上河内地区体育祭、上河内福祉まつり、上河内文化交流会など、地域の行事があるときは、部活動を休みにして、生徒が積極的に参加できるようにする。 ② 梵天祭後に、羽黒山の清掃活動「羽黒山ボランティア」を実施し、郷土を愛する心を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.6%で目標を 7.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・梵天祭、上河内地区体育祭、上河内福祉まつり、上河内文化交流会など、地域の行事があるときは、部活動を休みにして、生徒が積極的に参加できるようにする。 ・梵天祭後に、羽黒山の清掃活動「羽黒山ボランティア」を実施し、郷土を愛する心を育てる。
	B4 自分の考えを豊かに表現する力と豊かな心（関心・感動・感謝・思いやり等）の育成が図られている。 【数値指標】生徒へのアンケートの「生徒は、文化祭や総合的な学習の時間などで、充実した発表ができた。」⇒保護者の肯定的回答が 90%以上	① 豊かな心の育成を意図した掲示物や校内放送の充実を図る。 ② 「総合的な学習の時間発表会」の準備では発表の仕方を学ばせ、発表の質を高める。 ③ 各行事における振り返りの内容を工夫して、自分の感動体験をより実感させる。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 95.3%で達成している。 【次年度の方針】 ・生徒会活動等を通して、生徒が前に出て発表する機会を意図的に作る。 ・「総合的な学習の時間発表会」の準備では発表の仕方を学ばせ、発表の質を高める。 ・各行事における振り返りの内容を工夫して、自分の感動体験をより実感させる。

B 5 豊かな表現力を支える言語能力を向上させるため、読書の習慣化を図る。 【数値指標】生徒へのアンケートの「私は、読書が好きです」⇒生徒の肯定的回答が 75%以上	① 「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味関心に応じた図書を選定、探しやすい見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、図書を借りやすい環境作りをする。 ② 生徒会図書委員会活動の工夫による読書啓発、<u>図書ボランティアをより活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味関心を高める。</u>	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答 72.5%で未達成。 【次年度の方針】 ・学期に 1 回、クラスごとに朝の読書、朝の会を図書室で行い、図書館へ目を向けさせるようにする。 ・「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味関心に応じた図書を選定、探しやすい見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、図書を借りやすい環境作りをする。 ・生徒会図書委員会活動の工夫による読書啓発、<u>図書ボランティアをより活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味関心を高める。</u>
---	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◇市共通の質問項目が昨年度に比べ大幅に変わり、肯定的回答の比較ができないものが多い。教職員（25項目）、保護者（17項目）、地域住民（11項目）、生徒（19項目）の全アンケート72項目において、50項目に肯定的回答が85%以上という評価が得られた。昨年は教職員と保護者において肯定的回答の下がりが見られ課題となった。今年度教職員の肯定的回答で比較できる項目は11項目あり、**8項目においてポイントの上がりが見られた**。また、保護者の肯定的回答を見ると、9項目中2項目しかポイントの上がりが見られなかった。中でも「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の質問に対して肯定的回答が**76.7%**と5.3ポイントの下がりが見られ、生徒の肯定的回答を比較して見ると94.9%で18.2ポイントの差が見られた。地域住民においては、7項目の内1項目しか肯定的回答の上がりが見られなかった。生徒は9項目の内1項目しか肯定的回答の上がりが見られなかった。このような結果を見るとメガティブな発想しがちだが、教職員の肯定的回答が上がったことから、ポジティブな発想で教職員全体が一つになり今年度の反省を踏まえ、来年度の取り組みを検討していきたいと思う。

◇市と本校の比較表からは、市中学校平均値を上回った項目は、75項目中**46項目**であった。特に、No.14においては、教職員、保護者、地域住民及び生徒の肯定的回答が市の平均を上回った。特に、教職員は25項目中21項目も市の平均を上回り、保護者においても19項目中12項目が市の平均を上回った。また、地域住民は11項目中4項目、生徒は20項目中9項目しか市の平均を上回れなかった。

【改善が見られた項目】

○No.1「児童生徒は、進んで学習に取り組んでいる。」は、昨年と比較して肯定的回答割合が教職員は7.4ポイント、保護者は7.7ポイント上回った。

○No.4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」は、昨年と比較して肯定的回答割合が保護者は6.4ポイント、地域住民は3.4ポイント上回った。

・No.14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」は、教職員の肯定的回答割合が100%であり昨年よりも3.7ポイント上回り、地域住民においても肯定的回答割合が100%と最高の評価が得られた。

・No.18「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」は、教職員の肯定的回答割合が100%であり昨年よりも3.7ポイント上回り学力向上を意識した授業の取り組みが見られる。

・No.19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」は、教職員の肯定的回答割合が100%であり昨年よりも7.4ポイント上回り教職員の業務に対する協力体制ができていることがうかがえる。

○No.21「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」は、教職員の肯定的回答割合が100%であり昨年よりも7.4ポイント上回り、生徒においても3.2ポイント上回りが見られた。

・No.22「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」は、教職員の肯定的回答割合が100%であり昨年よりも3.4ポイント上回った。昨年度から全校生徒で実施している「羽黒山ボランティア」参道のゴミを拾い羽黒山を綺麗にすることや地域の伝統的祭事である「関白神獅子舞」のお囃子（笛と太鼓）を体験する授業を行うことで、「郷土愛」精神を育む絶好の機会となっている。

【課題のある項目】

○No.4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」は、教職員の肯定的回答割合が74.1%と昨年と変わらず、保護者、地域住民、生徒よりも低い。来年度は教職員の肯定的回答割合を80%に持ち上げたい。

・No.5「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる。」は、教職員の肯定的回答割合が74.1%、

保護者の肯定的回答割合が74.5%であり低い。来年度は教職員・保護者ともに肯定的回答割合を80%に持ち上げたい。

・No.14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」は、保護者の肯定的回答割合が76.7%と低い。来年度は保護者の肯定的回答割合を80%に持ち上げたい。

・No.25「学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。」は、保護者の肯定的回答割合が61%、生徒の肯定的回答割合が64.7%と低い。来年度はICT機器を活用した授業の推進に努め、保護者や生徒の理解を得て肯定的回答割合を80%に持ち上げたい。

○No.26「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている。」は、保護者の肯定的回答割合が76.3%と低い。来年度は保護者の肯定的回答割合を80%に持ち上げたい。

○No.30「生徒は、好んで読書をしている。」は、教職員の肯定的回答割合が77.8%、生徒の肯定的回答割合が72.5%、保護者の肯定的回答割合が51.8%と最も低く、本校でも積極的に取り組んでいる「朝の読書」地域のボランティアによる「読み聞かせ」を更に充実させ、全体の肯定的回答割合を80%に持ち上げたい。

7 学校関係者評価

◇地域住民からは、全体アンケート（13項目）の肯定的回答割合が、90%を超え昨年度よりも高い評価が得られた。特に、No.2「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」、No.6「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」、No.11「児童生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心を持っている。」、No.14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」、No.28「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」の5項目において肯定的回答割合が100%であった。このことから、学校経営の方針にもある、生徒を「豊かな心」を育むことをめざしたり、あるいは「未来を生き抜く力」を養わせたりすることが、積極的なボランティア参加や地域の行事に参加することで、地域の活性化につながり、中学生も地域を大切にする意識が芽生えてきたことがうかがえた。これからも地域のいろいろな行事で中学生が活躍してほしい。

○No.4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」、No.26「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている。」この2つの項目は、昨年度の上河内地域学校園協議会（4校）の会議の折に、小中共通課題として元気なあいさつや丁寧な言葉づかいができていないのではないかと話題に上がった。このことから、小中合同で夏休みを利用して「元気なあいさつ・ていねいな言葉づかい運動の標語募集」を行った。各学校5点の優秀賞作品を選び、計20点の優秀賞作品を讃え表彰を行い、地域の交流文化祭展示や学校掲示、更に地域の団体施設や会社などに20点の優秀作品の掲示をお願いした。このような運動を実践したことにより、No.4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」の保護者における肯定的回答割合は86.8%と昨年よりも6.4ポイント上回った。地域住民においても肯定的回答割合が92.9%と高く、昨年度よりも3.4ポイント上回った。生徒の肯定的回答割合は95.3%と非常に高かった。また、No.26「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている。」の教職員の肯定的回答割合は81.5%、地域住民の肯定的回答割合は92.9%、生徒の肯定的回答割合は87.2%といずれも肯定的回答割合80%を超えている。しかしながら保護者の肯定的回答割合が76.3%と80%を下回った。このことから、上河内地域学校園協議会で取り組んできた成果は少しずつ現れてきている。来年度も「元気なあいさつ・ていねいな言葉づかい運動の標語募集」を継続して行い、地域を更に盛り上げていきたい。

◇No.9「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」の項目においては、教職員の肯定的回答は63%、保護者の肯定的回答は52.1%と低く、宇都宮市のことはあまりよく知らないのではないかと。しかしながら生徒の肯定的回答は83%と非常に高い、これは地域の行事や伝統的祭りなどと重ね合わせているのではないかと。宇都宮市では既に小学校において「宇都宮学」を実施している。中学校においても「宇都宮学」を通して宇都宮の歴史・文化・観光を理解させながら「郷土愛」を育ませていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◇来年度からは学校関係者からは引き続き高評価を得られるよう努力し、保護者においては今まで以上に学校における教育活動の取り組みなどを今まで以上に知ってもらうためにも分かりやすく発信していきたいと考える。

・一つ目には、No.1「児童生徒、進んで学習に取り組んでいる。」に関しては、生徒の肯定的回答割合を90%以上にするために、生徒に分かりやすい具体的なめあてを提示し、主体的に学習に取り組めるようにさせたり、話し合い活動などにおいても、生徒が主体的に学んでいると実感できるような授業形態を工夫したりして、生徒が進んで学習に取り組めるようにしたいと考える。更に家庭学習ノートの提出と内容の振り返りをさせることにより、今まで以上の家庭学習の充実が図られると思われる。

○また、小中一貫教育を推進させるためにも学習指導主任を中心に、国・県・市の学力調査を分析しそれぞれの教科で課題を

明確にして、教科内の共通理解を図りながら魅力ある授業をめざしていくことも大切である。そして地域学校園での取組でもある「ゆずっ子学びの5つの約束」「アクション6プラン」を提示し、来年度も全教職員が共通の理解に立った指導を心がけていきたい。

- 二つ目には、No.4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」やNo.26「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている。」については、地域学校園全体の課題としてとらえ、元気なあいさつ・ていねいな言葉づかい運動の標語募集を行ったり、優秀作品を20点選び、それを地域の施設や会社に配付したりするなど、地域学校園で取り組んできた。来年度は、教職員や保護者の肯定的回答割合を80%以上に引き上げられるように努力していきたい。そのためにも、教職員自ら率先してあいさつをする意識を高めていくことが大切である。
- ・三つ目には、No.5「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる。」については、教職員・保護者の肯定的回答割合を80%以上にすることができなかった。今後、教職員と保護者の肯定的回答割合を80%以上に引き上げるためには、生徒が目標を1年間という長いスパンだけではなく短期目標も設定させ、その都度振り返りをさせながら生徒一人一人に達成感を味わわせたり、抽象的な目標の設定の仕方ではなく、数値目標など、より具体的な目標の立て方を指導し計画的に取り組ませたりするなど、生徒が生き生きと学校教育活動に取り組めるようにしていきたい。
 - ・四つ目には、No.10「児童生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」については、保護者・生徒ともに肯定的回答割合がとても低く、肯定的回答割合を80%以上にするためにはかなりの努力が必要であると考えられる。そのためにもICT機器や図書等を今まで以上に学習などにおいて積極的に活用していかなければならない。また、国語科や美術科だけでなく、他の教科なども積極的に図書室を利用するよう進めていきたいと考える。更に総合的な学習の時間を使い、生徒達にICT機器を使う機会を多く設けていく必要がある。
 - ・五つ目には、No.12「児童生徒は「持続可能な社会」について、関心をもっている。」については、教職員の肯定的回答割合が44.4%、生徒の肯定的回答割合が68.2%とかなり低く、来年度は多くの授業を通して、「持続可能な社会」についての理解を深めさせたり、授業で学んだことをもとにリサイクルなどの活動を行ったりして、社会に関心を持たせられるよう努力していきたい。
 - ・六つ目には、No.14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」については、保護者の肯定的回答割合が76.7%と低く、生徒とのギャップが感じられた。そこで、いじめを生まないための学校の取り組みなどを、保護者会、HP、各種だより等で発信していきたい。
 - ・七つ目には、No.28「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」については、教職員・保護者・地域住民・生徒の肯定的回答割合が比較的高かった。来年度も生徒達が地域の行事等に積極的に参加できるよう配慮したり、地域のボランティア活動に参加するようながしたりして、生徒達が地域を支えられるよう「郷土愛」を育ませたい。
- 八つ目には、No.30「生徒は、好んで読書をしている。」については、教職員・保護者・生徒ともに肯定的回答割合が低く来年度の大きな課題の一つであるといえる。来年度は教職員・保護者・生徒の肯定的回答割合をそれぞれ70%以上に持ち上げたいと考える。そのため、学期に1回、クラスごとに朝の読書、朝の会を図書室で行い、図書館へ目を向けさせるようにしたり、「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味・関心に応じた図書の選定、探しやすく見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、本を借りやすい環境作りをしたりすることが大切であると考える。更に生徒会図書委員会活動の工夫による読書啓発、図書ボランティアをより活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味・関心を高めていきたい。